

令和4年度 音楽科経営について

1 本校音楽科のねらい

- 伝えたい思いや意図を表現をするために必要な知識や技能を習得することができる。
- 音や音楽に触れた際に感じた魅力を、どのように伝えるのかについて、思いや意図をもつことができるようにする。
- 音楽活動に主体的に取り組み、友達と協働することのよさを生かすことができるようにする。

2 目指す子ども像

音楽科の学習は、主体的、創造的に音楽活動に取り組む楽しさを実感することが根幹となっている。そのために大切なことは、音楽活動の土台である音楽的感受性（リズム感、旋律感など）を身に付け、音や音楽の美しさなどを感じ取ることができるようにすることである。そこで、本校音楽部では、他者との関わりによって、感性を磨き合うことに楽しさを見いだす子どもを育成する。他者と音楽活動することで、自分とは異なる考えに出会い、様々な視点から音や音楽を捉えることができるようになると考える。

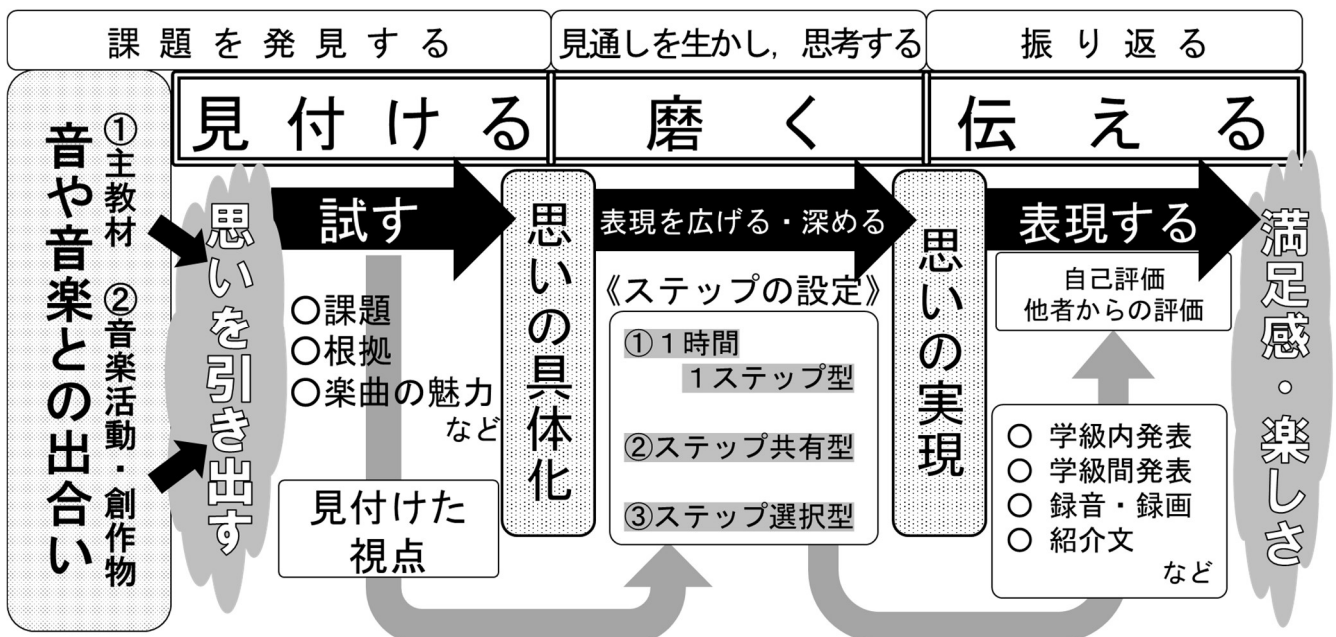
また、他者と合唱や合奏をすることで、音の響き合いに感動したり、友達に演奏を聴いてもらい、評価をもらうことで、自分の演奏に自信をもったりすることができると思う。

このように、様々な音楽活動を他者と協働して行うことで、互いの感性を磨き合い、心豊かな生活を営む基盤をつくることにつながるのである。

以上のことから、目指す子ども像を次のように設定した。

感性の磨き合いを楽しむ子どもの育成

3 学習過程



4 方策

(1) 主教材の精選

題材の中心に定める教材を絞ることで、表現活動を充実させながら、一つの楽曲とじっくりと向き合うことができるようにする。また、「様々な音楽に親しむ」という観点から、中心教材として定めない楽曲については、比較教材としての提示や、授業冒頭の定着タイム（常時活動）で活用する。

【追究型題材】

題材の中心教材を一つに定め、より良い表現を追究したり、楽曲を分析したりする。

(例)

第4学年「いろいろなリズムを感じ取ろう」

- 風のメロディー … 他題材で活用
- 楽しいマーチ … 比較教材
- いろんな木の実 … 定着タイム
- 言葉でリズムアンサンブル … 主教材

【比較型題材】

題材の中心教材を二つ定め、歌唱曲同士や、歌唱曲と器楽曲で比較し、表現の幅を広げる。

(例)

第4学年「歌声のひびきを感じ取ろう」

- いいことありそう … 主教材①
- パパゲーノとパパゲーナの二重唱 … 他題材で活用
- 歌のにじ … 主教材②
- まきばの朝 … 単独で学習

(2) 「思い」を引き出す出会い

設定した表現活動に、子どもが主体的に取り組むために、題材の初めに「思い」をもつことができる出会いを設定する。

【音や音楽への関心をもつ出会い】

主教材に定めた楽曲自体に魅力を感じることができるようになる。範唱CDや、プロ歌手等による参考音源、楽曲が表す風景等の画像の提示などによって、楽曲への関心をもつことができるようになる。

(例)

第3学年『ふじさん』 … 様々な富士山の画像

第4学年『パパゲーノとパパゲーナの二重唱』

… 絵本の読み聞かせ

【活動への意欲をもつ出会い】

主教材とは異なる教材を活用した活動を提示することによって、「やってみたい」という「思い」をもつことができるようになる。音楽づくりを含め、音楽を活用した創作物等を提示することによって、音楽活動への意欲をもつことができるようになる。

(例)

第5学年「詩と音楽の関わりを味わおう」

… 『赤とんぼ』ミュージックビデオ

第6学年「曲想の変化を感じ取ろう」

… 楽曲の魅力を伝える紹介文

(3) ステップの設定

子どもが、見通しをもって学習を深めることができるように、学習計画を立てる。子どもの「思い」からゴールを明確にし、“ステップ”を設定することで、主体的に音楽活動ができるようになる。

① 1時間1ステップ型

一単位時間の終末で課題を見だし、次時の学習につなげる。

② ステップ共有型

題材のゴールに向け、全体で3段階の課題を設定し、個人やグループ毎に課題に取り組む。

③ ステップ選択型

いくつかの課題の中から、個人やグループの「思い」に合うものを選び、課題を設定する。